

めだかの学校たより

平成 24 年 8 月 1 日
第 77 号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：静岡県磐田市
家田 529-20
TEL0539-62-6691

校長訓話

第七十七回 校長 田村 進治

「初老のつばやき…」

徒然なるままに…

日本の歴史を大きく変えた「太平洋戦争」が開戦したのは昭和16年12月8日、その1ヶ月前の11月8日に私は森町に生まれました。その頃は「日中戦争」で日本も中国との泥沼化の戦争を繰り返していたようです。父は「その戦争が早く進んで治まるように」と私の名前を進治と命名したとのこと。私を大きく育て母から聞きました。その父も私が小学2年生の8歳の時他界しました。

10年1昔と言われますがもう7昔も経過した過去を思うと沢山の思い出が、走馬灯のようによみがえって参ります。母子家庭で育った戦後、今みたいに食べる物も無く蒸かしたジャガイモを袋に入れて年上のガキ大将の後につき近くの野山を駆けずり

回ったことを思い出します。着ている服の袖は鼻水でいつも黒光り、男子はみんなくくりくり坊主であり女子はみんなオカっぱだったこと…等々思い出にはきりが有りません。

20年8月玉音放送があつたことは今思うと言っている意味とか、大人が何故集まってるのかまったく理解できませんでした。ラジオの前に皆が微妙な顔をして集まっていたことはありましたが日本の戦後の復興が始まりました。

都会では大きなビルが建ち新幹線、高速道路も開通し日本の高度成長時代の幕開けです。私も今のNNT、昭和35年当時の電電公社に入社した頃は33万人もの職員がいました。またその頃からの技術革新はすごいものがありました。FAX、携帯電話は、光ファイバーやインターネットの出現で通信業界も大きく変わりました。そんな中、職場は静岡、名古屋での単身

赴任生活を20年、今思うと家内には大変苦勞を掛けさせたと思います。

誰もが必ず来る退職「散る桜、残る桜も散る桜」です。仕事人間で生きてきた自分、何か趣味でも思い付いたのが「家造り」。好きだったおじいさんが大工さんであつたのが影響していたのかもしれない。木が好きで古民家風の家にも憧れが有りました。基礎、屋根、骨組みはプロにお願いして外壁、床、壁塗り、電気工事等はすべて自分で行いました。

その家でゆったり流れる時間の中に身を委ね、本を読みレコードを聴きながら自分を見つめ直すそんな時が至福の時間です。これからも前向きに晴耕雨読、そして今までお世話になつた地域への恩返しをして行きたいなと思つています。その為にはまず健康…こうして70歳になつても元気にいられる健康に感謝です。



めだかの学校伝言板

—第77回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長/田村進治

教頭/尾上美智子

用務員/塚水雄一郎

給食係/野嶋一男・鈴木祐之・大谷香代子・加藤ひとみ

藤田潤吉・藤田久枝・寺田幸宏・大久保陽

大谷洋介・田村進治・牧野久子・西川裕子

渡辺三ツ子(チーフ)

<学舎>静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山

みどりの郷キャンプ場 TEL なし

開校日/平成24年9月7日(金)6:20PMより

受付/大島たまよ・富田久美子・大場敬子

斉藤昭(後見人)

20期通年テーマ『めだかの学校20年 あらたな旅立ち』

<時間割>今回のテーマ<めだかと私>

—期初特別授業—

「めだかと私」~自由談義~

食事をしながら、7班に分かれて自由談義7:00~

各班のリーダーは当日決める。各班2分の発表あり。

[宿題]いつ指名されてもいいように心しておく。

●給食の時間は特に決めず、食べながらの談義。

~秋はマツタケの季節、マツタケ三昧?~

10:15閉校

めだかたち

■人に会いに行こう!

視察と研修と遠足も兼ねて

第10回全国まちづくり交流会 in 宮城・大崎鳴子温泉で開催。第11回は森町・全国でまちづくりの実践をしている仲間が交流する、『第10回全国まちづくり交流会 in 宮城・大崎 鳴子温泉』が、平成24年9月28日(金)～30日(日)の2泊3日で、宮城県大崎市の鳴子温泉郷 東鳴子温泉で開かれる。

今回は、「東日本大震災の復興を応援しよう」と、被災者の二次避難場所として最大の受け入れ先であった鳴子温泉郷で、被災地の現状と今後の課題を共有し、大震災後の「私たちの地域づくりとは・・・」を、被災地の視察をしながら考える。私たちにとても緊急な課題、多くの仲間と語り合おう。

・日時(スケジュール) 9月28日(金)17時受付、18時前夜祭(鳴子公民館周辺)、9月29日(土)8時被災地視察へ出発、10時被災地到着 視察。12時30分被災地出発、14時鳴子到着。全体会(鳴子スポーツセンター)15時開会式。基調講演15時30分～16時30分東京大学大学院総合文化研究科教授ロバート・キャンベル氏。パネルディスカッション16時30分～18時、鳴子温泉郷から、石巻から、南三陸町からパネリスト。18時～18時15分、閉会行事。交流会(鳴子公民館)18時30分～20時50分。20時50分～21時、次期開催地静岡挨拶。閉会。夜なべトーク21時～(各旅館広間、東鳴子温泉喫食堂)。9月30日(日)解散、自由行動。

参加費用は、前夜祭3000円、交流会5000円、宿泊費一泊7000円、被災地視察3000円、25310円ぐらい。バスR新幹線だと、25310円ぐらい。バス中型29人乗りだと20名で、1人あたり24483円。25名だと19690円。所要時間JR5時間強(4～5回乗り換え)、バス12時間(途中休憩含む)運転手は2人。バスは袋井市のさくら交通。東日本大震災応援ツアーを数多く手掛けているので安心。

どちらにせよ全体の費用は一人5万円前後。参加費用が少しでも安くなるように検討しています。

第11回は来年、静岡県の森町で開催。実行委員会を組織して、めだかの学校と共催で開催する予定です。

来年のことはさることながら、東日本大震災の応援と、私たちの緊急の課題である震災と震災後の対応と対策。全国の町づくりに携わる仲間との交流、「ひとに会いに行く」『視察と研修』『久しぶりの遠足』も兼ねて出かけよう。ひとりでも多くの参加を!。担当は村松達雄メダカと事務局の榎原幸雄メダカ。参加希望の方は0539・62・6691へ。

■第30回地域づくり団体

全国研修交流会鳥取県大会

全国の「元氣」が鳥取県へ集結! 未来に繋げよう!鳥取で一言を合言葉に、第30回地域づくり団体全国研修交流会鳥取県大会が、平成24年9月29日(土)～30日(日)の2日間倉吉市の鳥取県立倉吉未来中心を全体会場に鳥取県内11会場で開催される。28日(金)にはホテルセントパルス倉吉で前夜祭がある。

五しの体験と田舎料理だぞの鳥取市(第1分科会)、赤瓦の白壁土蔵のまち並みのある倉吉市(第2分科会)、さかなと鬼太

郎のまちの境港市(第3分科会)、いろんなジョイ体験のできる海の町岩美町(第4分科会)、鳥取砂丘を育む源流の森の智頭町(第5分科会)、「河原風呂」の三朝温泉の三朝町(第6分科会)、天女が舞い降りた、鶴の湖の湯梨浜町(第7分科会)、大山(だいでん)のある大山町(第8分科会)、古事記に登場する大國主命を祀った赤猪岩神社の南部町(第9分科会)、平成の名水百選「伯耆町地蔵滝の泉」の伯耆町(第10分科会)、日野川源流を有した自然豊かな日南町(第11分科会)と、11の分科会会場が待っている。全国の地域づくりの面白さと会えるのも魅力の研修交流会。

主催は第30回地域づくり団体全国研修交流会鳥取大会実行委員会ほか。実行委員長はめだかの学校とも交流のある福田京子さん。申込み締め切りは7月31日、「めだかの便り」が出る前に。締め切られている。こんな研修会があることを記憶しておいてください。問い合わせは事務局 0539・62・6691榎原まで。

■「第14回遠州横須賀街道

ちっちゃな文化展」

今回で14回目となる「遠州横須賀街道・ちっちゃな文化展」、今年は10月26日(金)～28日(日)の3日間開催されます。今年も城下町の風情が残る町並みの商店や民家、空き地や空き家など70余ヶ所に、100名をこす作家さんが「町並みの美と晴れ舞台」を演出します。めだかの学校からも鈴木真司メダカ、耳塚信博メダカ他が参加、町の中にはめだかの生徒たちもあちこちをうようよしています。初日26日(金)は13:00～17:00、27日(土)は9:00～21:00(夜間展示)、最終日28日(日)は9:00～17:00、駐車場は横須賀城址三の丸跡をご利用ください。芸術と町並み、作家さん、町の人、お客さん同士、出会い

と感動の3日間を「あなた」なりにお楽しみください!

■第9回浜名湖

フオークジャンボリー

第9回浜名湖フオークジャンボリーが、9月29日(土)～30日(日)の2日間、浜名湖ガーデンパーク「屋外ステージ」で、県内外の61バンドが参加して開く。フオークに魅せられた若者バンドからオジサンバンドまで。この2日間を歌い継ぐ。中村明メダカも実行委員として大活躍。問い合わせは中村明メダカ053・449・3566へ。

■姫街道・歴史と文化のお宝さがし

「第四回姫街道検定」問題集ができました

姫街道沿線の史跡や文化遺産を生かした地域振興に取り組み姫街道連絡協議会「姫街道未来塾」(会長・上嶋裕志メダカ)主催の、「第四回姫街道検定」(100問)の問題集ができました。今回の問題集は、見付宿―池田周辺(磐田)、浜松宿周辺、豊川―御油宿周辺など八つのエリアに分けて出題。いやや難しい。「現場に足を運んで、お宝探し気分」で挑戦してもらいたい」と会長さん。磐田市観光案内所にも置いてあります。回答の締め切りは来年1月10日まで。参加料は無料。問い合わせは奥浜名湖田園空間博物館総合案内所内、姫街道検定係053・527・1120へ。

■遠州森町の「森ほたる」

森町の街中商店街を照らす

遠州森町の街並みを明るくしよう!と取り組む「森ほたる」、今年も8月1日から15日まで行灯に灯がともる。会長の亀澤進メダカが音頭をとり、地域の商店主や地域おこしで頑張る仲間とはじめたもの。

昨年は県の景観賞を受賞。真夏の夜をそぞろ歩きをしながら、幽玄なひとときを楽しんでみたら…。いいですよ。問い合わせは、亀澤進メダカ0538・85・5076へ。「蔵展」といい、天浜線一宮駅前の「朝市」や「コンサート」、森町のメダカ生はがんばっている。

■浜松と磐田で「チベット医療」のワークショップ

身近な野草・薬草の見分け方・使い方の自然の英知・大地に根ざしたチベット医療のワークショップを、8月4日と5日の2日間チベット医学の第一人者、アムチ小川さんを迎えて開催。4日は浜松市の佐鳴湖公園駐車場周辺、5日は磐田市の見付天神社・つじい会館前に集合して、フィールドワークと勉強会を開いた。

チベット医学は、漢方など東洋伝統四大医学のひとつで、自然の生薬、鉱物を用い「氣」「陰陽」「五大元素」を基にする古代の生理学が根底にあつて、民間療法とは異なる。とのこと。「アムチ」という称号をとるには並大抵ではない。今回は終わってしまったが長野県小諸でアムチ薬房を開設しているので興味ある方は尋ねてみたら…。問い合わせは大島たまよメダカ0538・55・5882。

■開校日前に学舎をキレイに！
9月2日(日)午前9時から、学舎の清掃をします。今回は草木も生長しています。草刈りが多いと思います。調理室、トイレ、観音塾の清掃もあります。20期最初の授業の前にキレイに、「協力を」。午後は「いなさ湖」の花壇の手入れ。今コスモスの花がキレイに咲いています。(8月1日現在)お弁当持参でお出掛けを。

「入・ひと・ヒト」だより

●浜松市の小野田宗弘メダカ。高校の美術の先生。昨年12月に奥さんを天国に送って。人工呼吸器をつけた高校生のゆめちゃんを一時帰宅させたり、2人の男の子のお世話と大車輪。ゆめちゃん3時間ほどだった一時帰宅うれしそう。がんばって月1回程度帰宅させるつもりだつて。

●浜松市の野嶋一男メダカ。浜松市の県居小と元城小で、童謡歌手土屋朱帆メダカの童謡コンサートに5月17日にやっただつて。童謡や唱歌はいいねえ。12月2日(日)アクトシティ浜松で土屋朱帆の童謡コンサートをやる予定とか。

●東京のかまちよしろうメダカ。早稲田大文学部を卒業して漫画家に。ツイート漫画「犬サブレ」世界の片隅で。○赤 今日もつぶやく編」を、創社から発刊。定価1000円税別。時には苦く、時には甘く生きてることがユカイになる犬サブレ。野良犬のサブレに作者のつぶやきがのりうっただつて。磐田市の「とれたて元氣村」でも売っているよ。

●浜松市佐久間町の耳塚信博メダカ。「深遠の石」プランNO14を製作中だつて。石にこだわる本来の姿に戻ったのかな。うれいね。

●浜松市天竜区の本島慎一郎メダカ。NPO法人「元氣里山」を設立し理事長に。「食・楽・感」が活動の3本柱。地元菓子店「光月堂」に依頼して天竜茶を使った「二俣出合いロール」を開発。ぜひ食べてだつて。

●磐田市の村田徳治メダカ。HPの製作などをやっている。遠州地方の情報を収集して「遠州こたわりネットワーク」で情報発信している。これからは情報発信側ではなく、NPO法人をつくって、情報の発信源

側になりたい、だつて。「NPO法人磐田感好づくり応援団」なんてどう?

●浜松市の西川裕子メダカ。歌声喫茶カフェ「トライアングル」、6月23日で3周年。(おめでとう)、作詞作曲もするし、歌もうたいますよ。

●浜松市フラワーパークの近くで手打ちそば店「ふじ花」をやっている藤野利昭。はつえ夫婦メダカ。木金定休で美味しい腰の強いそばを提供している。脱サラとは思えぬ立派なそば職人。「そば」と言えばめだかの学校にはこちらも先輩脱サラのそば職人、岐阜県深草の「そばの里」深草ふぐど」の長谷川政夫メダカから、アマチュアの袋井市の松本芳廣メダカ、浜松市の溝口久メダカ、石野省三メダカ、中村明男メダカ、本島慎一郎メダカ、磐田市の鈴木正士メダカ、森町の服部守孝メダカがらいる。

●浜松市の蜂須賀千賀子メダカ。浜松市蛸塚でうなぎの店「かんたるうなぎ店」をやっている。土用の丑の日、フトコロ具合でうなぎを食べ損なつたが、おかみさんの顔をみつ、夏バテの回復に鰻を食べにこつ。

●名古屋市の山根圭三メダカ。昨年11月から詩吟をはじめたんだつて。詩吟なんて吟詠者の自己陶醉の世界、聴衆にとっては全くオモシロクなし、と考えていたが、「詩の全文」を見ながら聴くと頭脳体操になる。腹式呼吸の健康増進に抜群。遅くないですよ。あなたもはじめてみたら…。

●岡崎市の太田民次メダカ。まさに詩吟の先生。この方面にあつては有名な方ですヨ。めだかの学校で、高齢者生き生きサロンでも開いてみんで「べんせいしゆくしゅく」とやるのもいいね。

●三重県津市の杉谷知也メダカ。そろそろパパになる頃だが、パパ似のまるまる太ったかわい赤ちゃんかもね。

●豊橋市の金子芳美メダカ。登校したいけど夜道は恐いからダメだつて。愛知県の県会議員の秘書(?)をやっているわりには気が小さいのかな。8月に天浜線の車両を借り切ってイベントをやる。その下見に来て、遠州森町一宮駅で服部守孝メダカと出会うてびつくり。その横に県議のお伴で、先日お会いした川勝静岡県知事がいるのを見て、あわててご挨拶。「こんな太つためだかも珍しい」とは知人の言。

●浜松市引佐町浜川の鈴木計芳メダカ。引佐町の茶生産者と立ち上げた「引佐熱成茶研究会」の会長に。緑茶は一定期間貯蔵すると青臭さが取れてうま味や甘さが増すとか。気温18度でほほ一定の竜ヶ岩洞の洞窟内で貯蔵、9月には竜ヶ岩洞で試飲会を行う、と。先代の竜ヶ岩洞社長の故戸田昭朗さんはメダカ生。

【新入会員紹介】
●富田久美子メダカ。磐田市で竜の子幼稚園の先生をやっている。子供たちの元気な姿、子供たちと遊ぶのが大好きだつて。磐田市のキヤラクター「しっぺい」のみこしを園児らが手作りして静岡新聞にでています。

●磐田市の大島たまよメダカ。大学時代は考古学で縄文土器などを研究していただつて。今は葛布、名刺には「葛葉(からく)大島たまよ」とある。縄文と葛布。どこかつながりが…。8月3、4日には浜松と磐田でチベット医学の講演会主催も。

お便りくださいいね。今回は紙面の都合でこれまでです。

*めだか春秋は今回お休みです。

トピックス

■「めだかの学校」開校20年

「おもしろ人立」めだかの学校」は、この9月で20年になる。よくもまあ20年も続いているもんですね。言い出しっぺの4人のうち2人は他界し、1人は長いリハビリ中、1人が孤高に『建学の精神』を芯棒に継続している。そう、『建学の精神』があればこそ20年も続けて来られた、と思っている。

「めだかの学校」のキーワードは、「好奇心と遊び心と挑戦心」。

校歌「めだかの学校」の、そつとのぞいてみて「らん」は好奇心。誰が生徒か先生かーは、挑戦心。みんなでお遊戯しているよーは、有意義な遊び心を持つことの必要性を問うている。お互いの人格と技量を尊敬しあうことが基本に流れる精神ーそのためにはあつけからんとした楽天的なブラス志向の校風が肝要とも。そしてのんきな顔を、しなやかに、まるやかに、けれどもしたたかに振る舞う生徒と先生の出会い、そうした行動の中から「もう一人の私」「もう一人のあなた」の発掘を自ざし、共に学び喜びを享受しながら人生を楽しくやっていくことが大切。建学の精神に惚れて入校した生徒は、人や自然の心を大切にするよき人間たらんと自覚すべきである。そしてだれに言うともなく「いい人生だなあ、ありがとう」と言うようになろうーなのである。

だいぶ省略してしまったが、この20年何度も唱和してきたが、どれほど実践できただろうか。ましてや20年の私がこの程

度だから、在校年数の少ない生徒にとつては、何をか言わんやであろう。『建学のこころ』を人生の糧としてあらためて考えてみたいものである。

■事務局だより

残暑お見舞い申し上げます。暑い日が続きます。我が家では遂に今年もクーラーのスイッチを入れてしまいました。涼しいですね。ロンドンでは熱い戦いがたけなわです。こちらは夏バテ。ポワンです。便りが届く頃にはオリンピックも終わってたりして・・・ハイ

さて、第76回めだかの学校は24年6月1日。校長鈴木偉代、教頭大久保陽、用務員山田修平。鈴木校長、富士宮市にあるホールアース自然学校を5年間勤めて浜松へ戻ってきたと。大久保教頭は、正月に息子さんと、そのあとすぐに兄上を天国に送り出し、今は100日で悲しみを卒業の『卒業』と。1時間目理科「蜜蜂の絆の社会」寺田幸宏先生。蜜蜂とは41年のつきあい。蜜蜂は一匹の女王蜂に数千から数万匹で生活。巣は入り口が狭く中が広いところに作る。新女王が誕生すると旧女王は半分を引き連れて分派する。と。2時間目家庭科「相つき縁側カフェ」山田ひろ子先生。佐久間町の相月で、ご主人定年後の生活と900坪の土地と20坪ほどの母家と広い茶畑のある土地を借りて生活。今は「縁側カフェ」をやったらどう」と言われ、縁側カフェをやっている。と。3時間目社会「見知らぬ人との出会い旅」山下安範先生。青年海外協力隊に参加してジャマイカで、国営百貨店のようなところで雑貨の仕入れから販売のようなことをやっていた。と。JICAの応募要項の資料をもって話す。「今のめだか生は年齢と健康診断で駄目でしょうね」だって。(笑)三者三様の興

味深い授業であった。お待ちかねの給食は、鈴木武史メダカのおジャガさんほか、おいしくて食べ過ぎでした。私語飲食全て禁止の次回三役の発表。次回は77回20期最初の開校で9月7日。校長田村進治、教頭尾上美智子、用務員塚水雄一。まじめ人間の田村校長に。しつとり女性の尾上教頭、元気の塚水用務員、よろしくね。自主推薦の給食当番、今回も同じようなメンバー。給食当番でないが早く登校した生徒が率先して給食に関ってくれるので助かる。

ここでの授業は来年の3月で終了。夜の帳に消えてゆく人の姿になぜか心が揺さぶられる。「みんな元気だね」。まだ早いよなア、困ったものです。

第77回「めだかの学校」の職員会議を、7月19日(木) 磐田市のとれたて元氣村「味里」で田村進治校長、尾上美智子教頭、塚水雄一用務員は欠席で行う。出席者は12人。今回は20期の期初であるので、特別授業とする。通年テーマは「めだかの学校20年 新たな旅立ち」。テーマは「めだか」と私。一班7〜8人で、七班に分かれてテーブルごとに話し合う。各班の進行役は当日決める。各班でどんな話が出たか知りたいので、2分で発表してもらおうことに。『建学の精神(こころ)』に思いを馳せるのも大事だね。その他では第10回全国まちづくり交流会が9月28・29・30の3日間、宮城県鳴子温泉で、東日本の被災地の視察を含んで行われる。来年の第11回は森町で行なう予定なので多くの人の参加を願ひ、バス会社からの見積もりもとった。それらを説明。ぜひご参加を!。20周年記念式は25年2月9日(土) 10日(日)。浜松市北区引佐町奥山の方広寺で行うことを再確認、申し込むことに。実行委員長は1回生の石野省三メダカです。いよいよ動き出します。

■あぶが早くやれ!と周りをぶんぶん! 「今回は早く出来そうだね」と間瀬亮太メダカ。校長訓話の原稿が締め切り前に、ペラの伝言板と1面も。2、3面の原稿は送ったが、4面の事務局だよりと、トピックス・8月6日の広島に原爆が投下された日に書いている。うーん、常態になつてしまった。伊藤英雄メダカ、田村進治メダカ、鈴木武史メダカ、最後の締めの間瀬亮太メダカありがとう。(パソコンを買い、メール番号もあるが、思いを共有するために今まで通りに続けます、とは。(笑))

■第20期の受け付けを始めています。第20期は、24年9月1日から25年8月31日までです。20期の受け付けは6月1日の第76回開校日から始めています。現在60人の生徒が済ませていきます。「めだか生」でまだ手続きをしていない人には、再度申込書を同封します。8月31日まで済ませて下さい。手続きを怠ると名簿からはずれ自主退学となります。ご注意下さい。入学希望者がありましたら事務局までご連絡ください。資料と申込者を送ります。

■めだかの学校だよりの原稿を! 次回の発行日は平成24年11月1日、原稿の締切りは10月20日です。あなたの活動予定やイベント、活動実践など送ってください。郵便かFAXで。メールの方は、tabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp 間瀬亮太090・5009・0986です。(メールの方は割付の関係もあるので「報を」)

■めだかの学校の事務局 〒438・0105 静岡県磐田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL0539・62・6691 (FAX同じ) ※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡は事務局まで。 携帯080・1612・9130

